

ひょうごの福祉



認め合い ともにつながり 支え合う みんなでつくる ひょうごの福祉

特集……P3

みんなでつくる 「見守りネットワーク」

～つながりづくりから新しい支え合いへ～

年頭所感……P2

みんなでつくるひょうごの福祉……P7

学生と住民が協働して困りごとを解決
～西宮市鳴尾東分区で地域主体の
「お片づけ隊」が始動!!～

応援します!ボランティア・NPO活動……P8

市民活動をサポートする
「総合的」中間支援組織
特定非営利活動法人 シーズ加古川

地域を駆ける! ワーカー物語……P9

地域の底力は人のつながりづくりから!!
佐用町社会福祉協議会 えみ よしひろ 江見 義弘さん

県社協ニュース……P10

愛ちゃんと希望くんの共同募金NEO……P11
みんなの広場

1
No.731



1月15～21日は
防災とボランティア
週間だよ!





みんなで作る「見守りネットワーク」

～つながりづくりから新しい支え合いへ～

誰もが安心して暮らせる地域とはどういう姿か、つながりが希薄になったと言われる今、私たちに何ができるのか。

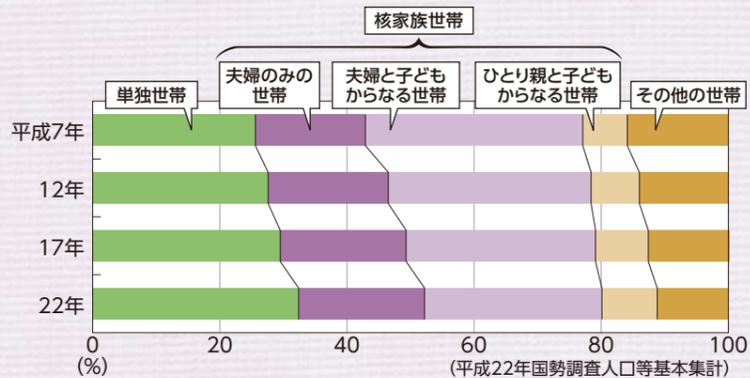
東日本大震災は、人と人のつながりの大切さを再認識するとともに、地域のあり様を問い直すきっかけとなった。

今回の特集では、県内の各地域で取り組まれている多彩な見守り・支え合い活動を紹介し、安心して暮らせる地域づくりに向けた取り組みの視点を整理する。



県内各地で広がる見守りの輪(尼崎市見守り協力員)

■一般世帯の家族類型の割合の推移-全国(平成7年～22年)



- 急な病気で苦しんでいる時に、身近に助けてくれる人がいない
- 電球の交換などちょっとした手伝いが欲しいが頼れる人がいない
- 近所の友達も少なくなり、毎日が孤独だ

こうした不安を抱える人は少なくない。これまで家族や地域の支え

単身世帯が初めて3割に問われる地域のつながり

合いで解決していた課題が、生活の中で噴出している。

背景として注目されるのが単身世帯の増加である。平成23年10月に公表された国勢調査人口等基本集計では、初めて「単身世帯」が子どもがいる夫婦世帯を上回り、一般世帯の3割を超えたことが明らかになった。一般的な家族形態が「夫婦と子ども」世帯から「一人暮らし」になったという衝撃のデータだ。65歳以上の男性10人に1人、女性は5人に1人が一人暮らしということになる。

単身世帯の増加と高齢社会の到来は、冒頭のような生活の困りごとや不安にどのような解決策を見出すのか、私たち一人ひとりがどのような地域を望み、かわりを持つのかを投げかけている。

こうした中、高齢になっても障害があっても安心して暮らせる地域づくりを目指し、兵庫県内では地域性を生かした豊かな活動が展開されている。担い手不足や個人情報共有方法で悩みを抱える地域も多い中、創意工夫を凝らし、地域ぐるみで見守り・支え合い活動を行っている事例を紹介する。

年頭所感

新年あけましておめでとうございます

兵庫県知事 井戸敏三

創造と共生の舞台づくり

平成24年新春のご挨拶を申し上げます。

9か月前の東日本大震災は、全国に大きな影響を及ぼしました。被災地は、ようやく復旧復興のスタートを切りました。17年前、阪神淡路大震災を経験した私たちにだけに、これまで同様、これからもできる支援を続けていきたいと思います。20年になるデフレ経済、円高の長期化など経済社会にも不透明感が広がっています。また、兵庫も人口減少社会に突入しました。しかも、高齢化、少子化、地域格差の拡大を伴っています。今だからこそ、将来不安のない社会的枠組を再構築し、あわせて地域個性が発揮される元気な地域づくりを進めなければなりません。21世紀兵庫長期ビジョンが見直されました。今こそビジョン、高い目標をもち、これを目指して、ともに兵庫の未来を拓きましょう。

第1は、安全安心の基盤づくり。東海・東南海・南海地震や、頻発する風水害への備えに万全を期すとともに、医療、健康、福祉、食など、安心基盤を確保します。

第2は、質の高い生活づくり。若者の自立を応援し、出会い、子育て支援を進めます。地域づくり活動を助け、誰もが暮らしやすい社会をつくりたいです。エネルギー供給の多様化も見据えた再生可能エネルギーの活用など自然と調和した生活を拡大します。

第3は、新時代の経済社会づくり。緊急経済雇用対策を講じつつ、先端科学技術基盤などの兵庫の強みを生かし、競争力を高め、新たな成長産業を振興します。また、PPP協定の議論を注視し、強い兵庫の「農」を育てます。

第4は、地域の元気づくり。都市と農村との交流、地域再生大作戦のさらなる展開、交流と連携を支える社会基盤の整備を進めます。国出先機関の丸ごと移管など、正念場を迎える分権改革に、関西広域連合一丸となつて取り組みます。

これからも、自立と連帯、安心と活力、継承と創造を基本に、明日の兵庫を築いていこうではありませんか。

夢を持ち 夢を求める 地域こそ 我が郷土で あるであれかし



兵庫県知事 井戸敏三

会長「あいさつ」

認め合いとつながり 支え合う社会へ

兵庫県社会福祉協議会会長 武田政義



新年あけましておめでとうございます。

本協議会では「兵庫県協2015年」計画を策定し、「認め合い」ともつながり支え合うみんなで作るひょうごの福祉」をスローガンに掲げ、さまざまな事業に取り組んでいます。

このたびの計画では、家族・地域社会の中で人と人とのつながりが希薄になる中、表面化している諸問題乗り越えるためには、今の社会のあり様を一人ひとりが問い直すとともに、より幅広い団体・個人の地域福祉への参加を呼びかける必要があるという課題認識に立ちました。

折しも昨年3月11日に発生した東日本大震災において、改めて人と人とのつながり、支え合いの大切さが再認識されることとなりました。つながり豊かな社会づくりに向け、まずは一人ひとりがお互いをかけがえのない存在として認め合い、人として尊重される実感から他者とのつながりをつくるのが大切であるということを、会員をはじめとする関係者の皆さまとともに広く県民に呼びかけていく所存です。

幅広い県民の参画と協働を得ながら、目指す福祉社会づくりを推進するよう一層努力してまいりますので、引き続き皆さまの温かいご支援をお願いいたします。



全住民で見守ろう！

「幸せの黄色いハンカチ運動」

(養父市堀畑区福祉連絡会)

養父市堀畑区は、人口約2800人の内150人が60歳以上。この地区では、福祉連絡会が中心となり平成22年10月から、全住民による高齢者見守り活動「幸せの黄色いハンカチ運動」を展開している。

毎朝、黄色いハンカチを軒先に出し、夕方には取り込みを行う。ハンカチが出ていなければ対応が必要というところで、近隣住民が高齢者の安否を確認できる仕組みになっている。

この取り組みは、地区内のある一人暮らし高齢者が病気で寝込み、飲まず食わずのまま数日間発見されなかった出来事が発端となった。民生委員や福祉委員が気にかけていたにもかかわらず、このような事態が起ってしまったのだ。

区福祉連絡会では、話し合いを重ね、民生委員と福祉委員だけで高齢者を見守るのではなく、「全住民による見守り」が必要と考えた。見守り希望者へは、「自分の命は自分で守る」大切さを訴え、積極的に希望者として手を挙げることを呼びかけるとともに、住民には見守り希望者の存在を知らせた。一方、一人暮らし高齢者が黄色いハンカチを軒先に出すことで、悪徳業者

等の標的になることも想定されることから、地区内の全世帯約1000世帯に黄色いハンカチを軒先に出してもらっている。

運動を通して、高齢者を見守っていかねばという住民意識が高まっている。今後、黄色いハンカチをあげられない人が出てくるかもしれない。その時も頼りになるのは近所の見守り。今から相互関係を作り上げていく必要がある。堀畑区長の下村さんは「人は一人では生きていけない。みんなで助け合い、共助・共生の地域をつくらせていきたい」と話された。



みんなの見守り・声かけが安心のもと(下村区長[右]と見守りを希望した住民) 全世帯の軒先には黄色いハンカチが

住民も専門職も一緒に「パラ公園ネットワーク」の見守り

(神戸市東灘区)

「パラ公園ネットワーク」は、2年前に東灘区の岡本・西岡本地区の住民たちで結成。声かけや見守りを行うほか、2〜3か月ほど一度は集まって話し合いをしている。メンバーはローンショップ、うどん屋や花屋、ケーキ屋の店長、交番の警察官、医師、薬剤師、地域包括支援センター職員、区役所職員など多彩で、約20名に広がった。

「常連のお客さんのもの忘れが気になつていたので植田さんに相談したのがきっかけなんです」とローンショップ店長の植田さんは結成のきっかけを話す。植田さんは、神鋼ケアライフ岡本あんしんすこやかセンター(地域包括支援センター)職員で、交番から認知症が原因の泥棒騒ぎを相談されたり、住民から話を聞いたりする中で、みんなが集まって話し合う場の必要性を感じていた。

「歩いて行ける地域の小さなネットワークがたくさんできれば」という植田さんらの思いに賛同した地元医師も立ち上げの中心に加わり、認知症の学習をしたり、地域で気になっていることを各自の立場で話し合っている。メンバー全員が、認知症サポーター講座を受講したほか、警察官がメンバーであることから東灘署の全署員が講



ゆるやかなネットワークが楽しい!(パラ公園で神鋼ケアライフ岡本あんしんすこやかセンター職員)

座を受けて認知症サポーターとなった。また、今年の夏にネットワークが開催したパラ公園の「フォトコンテスト」をきっかけに、地域に関心の輪が広がっている。

「商売しながら、できることをやるだけ」「一人暮らしは気楽だけど不安もあるのよ。声を掛け合って安心してもらいたいと思って」「いざという時にどこに相談したらいいのか知らない方も多いのでつなぎ役になれば」とメンバーは話す。お互いの気配り、ちよとした「おせっかい」が暮らしの安心になっている。

「気づきを共有することで負担感を軽く、かわるみんなが元気になれるネットワークにしたいですね」とセンター職員は話す。

配達業者も連携した見守り活動

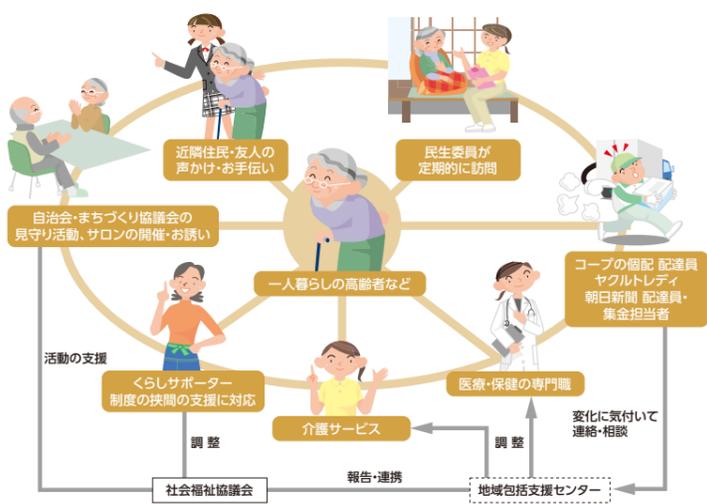
(宝塚市)

宝塚市では、市と市協が生活協同組合コープこうべ・ヤクルト・朝日新聞販売店などと協力確認書を交わし、個別配達での訪問にあわせて高齢者の見守りを実施している。

個別配達業者は定期的に訪問しており、配達先の住民と顔見知りの関係にあることから、住民の異変にも気づきやすい。確認書が交わされたことで、異変を地域包括支援センターに通報・連絡する体制ができた。また、地域包括支援センターだけでなく、地域包括支援センターが困難なケースは、市協が民生委員やボランティアなど地域住民の見守りと一体的に取り組めるよう相談をつないでいる。

取り組みの成果として、住民のちよとした異変でも連絡してくれる配達員が増えるなど、仕組みができたことで見守る側にも気づきの視点が養われ始めた。また、業者からの通報によって、認知症高齢者の支援につながったケースも出てきた。

宝塚市における見守りネットワークの例



今後はコンビニや郵便局などの店舗にも協力してもらい、住民に身近なエリアでの見守りがさらに広がっていくことを目指している。市協では、他にも、「ひきこもり」など既存のサービスにつながる制度の狭間の支援に対応する「くらしサポーター」事業を実施。地域の多様な事業者を巻き込むことで、見守り活動の担い手拡大と、地域で困りごとを抱える人を協働で見守る支援体制の拡大につながっている。

みんながをつくる見守りネットワーク

互いを気遣う心が基本

「 SOS が出せる関係づくりから」

養父市堀畑区の全世帯をあげての見守り活動や、神戸市の「パラ公園ネットワーク」の活動は、住民同士の互いを気遣う心が見守り活動の根本にあることを示唆している。

見守り活動が目指すものは何か。「できるだけたくさんの方の世帯の安否確認しなければ」「本人から困りごとを聞き出さねば」ということに必死になるあまり、見守り活動の本来の役割が果せなくなってしまう場合がある。

見守り活動の目的は、地域で生活課題を抱える一人ひとりが、困ったときにいつでも SOS が出せるような関係をつくることにある。そのためには、本人と十分に「コミュニケーション」をとり、じつくりと信頼関係を築いていく必要がある。各事例では、住民が見守り見守られ、お互いさまと思ひ合える関係性の中で、地域全体の住民のつながりが深まっ

信賴関係のない間柄では、見守りは単なる「監視」となりかねない。見守りが特別なことではなく、日頃のさりげない近所づきあいの中で展開されることが大切である。

信賴関係のない間柄では、見守りは単なる「監視」となりかねない。見守りが特別なことではなく、日頃のさりげない近所づきあいの中で展開されることが大切である。

できることから無理のない活動を

信賴関係が大切だからこそ、できるところから始めて、無理のない活動を続けることが大切だ。

例えば、認知症の一人暮らしは火の元の始末ができないからと、住み慣れた自宅での生活をあきらめざるを得ないケースがある。しかし、近隣の住民や配達業者や店舗など、かわる人が食事時にちよと声かけをするだけで不安が解消できるケースもある。また、道で会った時のあいさつだけでも安心感につながる。この際、見守り活動を特定の人で抱え込まず、地域のみんなで取り組めるようにする視点も重要である。



生活に密着した担い手の広がりを

私たちの生活を振り返ると、地域住民以外にも、さまざまな人と顔を合わせ、「コミュニケーションをとっている」に気づく。

先の事例では、配達業者や店舗などの事業者も見守り活動の担い手として活躍している。人口が減少し、地域活動の担い手が減る中、既に行われている地域活動とは別に、一から新しく活動を立ち上げるのは難しい場合も多い。地域内で既にある住民や事業者とのつながりに目を向け、そこに見守りの視点を加えていくこ

見守り活動を進める 3つのポイント

- 1 互いを気遣う心が見守り活動の基本
～SOSが出せる関係づくりから～
- 2 できることから、無理のない活動を続けましょう
- 3 見守りのネットワークを広げましょう
●地域福祉活動の担い手を広くとらえましょう
●専門職とのつながりを意識しましょう

とが大切である。

また、日常生活で気づく異変が、相談につながるよう、他の住民や専門機関につなげる方策づくりが問われている。「パラ公園ネットワーク」の取り組みでは、住民や専門職が集まって、各自が気づいたことを話し合う場を設けている。専門職が暮らしの視点で住民の活動をバックアップしながら、相互に気づきを共有したり話し合ったりする場を設けると、そして何より気づきを共有できる関係を普段から築いておくことが大切である。

見守りネットワークで

お互い様と思える地域を

「見守りネットワーク」は、共助を地域の中に作り、つながり豊かな地域をつくる上で基本となる取り組みだ。地域ぐるみの見守り活動を進め、それぞれが地域のつながりの大切さを実感することが、私たち一人ひとりの暮らしやすい地域づくりに返ってくる。みんなが「お互いさま」の気持ちで支え合う、つながり直しが求められる時代が到来している。

見守られなくなる地域を目指そう～見守りネットワークと個人情報の共有～

佛光大学福祉教育開発センター 講師 後藤 至功さん

3月に発生した東日本大震災を機に、改めて防災・減災活動の取り組みが全国的に広がっています。今後、私たちは地域において何を備え、どのような取り組みを強化していく必要があるのでしょうか。

「高齢者の地域におけるライフスタイルに関する調査」(内閣府/平成22年)によると、60歳以上・単身世帯の約2/3(64.7%)が孤独死を身近に感じていることがわかり、大都市、中都市では、孤独死を身近に感じる人が5割近くにものぼる結果となりました。

こうした中、平成15年に個人情報保護法が施行され、要援護者情報の共有や見守りネットワーク推進に大きな壁が立ちちはだかることとなりました。対策として多くの地域では、要援護者情報の把握を「手上げ方式」や「同意方式(要援護者が自身の情報を関係機関・団体間で共有することに納得した上で情報提供を行う方式)」により、情報収集を行うなどの策が講じられました。ちなみに個人情報保護法では、要援護者の生命と生活、財産を守る観点から、災害時には個人情報を公開、共有し

てもよいということが示唆されています(個人情報保護法第23条1項)。

こうした状況のもとで、私たちは今一度、見守りネットワークの意味を考え、行動に移す必要にせまられました。これは、地域活動者のみならず、要援護者本人についても、然りです。私は、見守りネットワークとは、「両者が見守りたくなくなる地域、見守られなくなる地域を目指す取り組み」であると考えています。

そのために「地域の課題である人」という視点ではなく、「地域で困っている人」という視点で地域活動者は把握活動に関わることが重要ですし、要援護者本人も自身の情報を周囲にひた隠すのではなく、万が一に備えて、地域に「困った」と言える人を見つける勇気を持ち、地域とかわかって欲しいと願っています。こうした関係性の中では、双方がけん制することなく、おのずと「個人情報の壁」という課題はクリアできるのではないのでしょうか。

みんなでつくる
ひょうごの福祉

地域で支え合い、地域を元気にする取り組みを紹介します。



見えてきた
ちよつとした困りごと

鳴尾東分区分区センターでは、コーディネーターや民生委員が日々住民の困りごとと向き合う中で、「困りごととは地域のみんなで解決していきたい」という声が上がった。まずは、地域の高齢者が具体的に何に困っているのかを知るために、市社協の協力で調査を実施。その結果、「高いところの電球交換ができない」「腰が痛くて、重い本を処分できない」「庭の草木を何とかしたい」といった、ちよつとした困りごとが見えてきた。

この調査結果を、同分区分と交流を重ねてきた武庫川女子大学の学生たちが耳にし、学生と地区センター、民生委員との協働によるボランティア「お片づけ隊」が発足した。

チームを組んで支援開始

昨年12月、いよいよ「お片づけ隊」が活動を開始。初日は老人会の役員や近隣の男性ボランティアも合流し、6チームに分かれて計8軒のお宅を訪問した。庭木の手入れを行ったあ

学生と住民が協働して困りごとを解決

～西宮市鳴尾東分区分で地域主体の「お片づけ隊」が始動!!～



「お片づけ隊」結成!分区分役員や近隣のボランティアらとともに

るお宅での出来事はチームで活動する意義を物語る。依頼をしたご本人の「のこぎりも使えない人は困るねえ」の声に、表情が硬くなる女子学生「じゃあ、これ運んでもらうたら?」と民生委員が間に入った。一緒になって汗を流すうち、ご本人と学生の距離は縮み、活動が終わった後には、「助かったわあ」「ありがと」の言葉が交わされ、笑顔の輪が広がった。

地域みんなで困りごとを解決

活動終了後の振り返りの場では、「知り合いには見られたくないことがあるのかも」など、本人の思いを尊重して活動を進めることの大切さが確認された。

取材を終えて

「お片づけ隊」の活動の様子を見て、「何かあったんですか」と近隣の方が尋ねられる場面がありました。活動をきっかけとして、近隣同士の関心と気づきの輪が少しずつ広がってほしいと思います。メンバーがそれぞれの持ち味を発揮することで生まれる笑顔の「わ(和)・輪(輪)・話」が、地域の中にさらに広がっていくことを楽しみにしています。

西宮市鳴尾東地区ボランティアセンター
☎0798-49-3315(毎週火・金曜日の9:30～12:30開設)
西宮市社会福祉協議会 地域福祉課
☎0798-23-1143

参加した学生からは、「喜んでいただけると本当に嬉しい」との声が寄せられ、坪倉勝分区分長からは、「寄せられた声をぜひ次につなげたい」と、今後も「お片づけ隊」の活動を続けることが宣言された。

西宮市社協の上野武利さんは、「男性や日中働いている人なども隊員として広がってほしい」と、「お片づけ隊」のこれからに期待を寄せている。

世代を超えた協働により、ちよつとした困りごとを解決に向けて動き始めた「お片づけ隊」の今後の展開に注目したい。

このコーナーでは、県内の社協職員など“地域福祉を進める人々”の活動を取り上げながら、ワーカーとしての想いを伝えます。

地域を駆ける！
ワーカー物語

市民活動をサポートする「総合的」中間支援組織 特定非営利活動法人 シーズ加古川

応援します！ ボランティア・NPO活動

東播磨のボランティア活動交流拠点

設立から10周年を迎えたNPO法人シーズ加古川は、理事長の田中茂さんが阪神・淡路大震災時に子ども心のケアをする活動をしながら、ボランティアコーディネート拠点づくりに動いたことがきっかけで誕生した。当時は、それが中間支援だとは思ってなかったという。

平成21年から県立東播磨生活創造センター「かこむ」の運営を受託。ここで「かこむ倶楽部」というボランティア登録

制度をスタートし、現在では地域活動やNPO、趣味・サークル活動など340もの登録団体が活発に活動する東播磨地域の一大活動交流拠点となった。



スタッフを迎える広々とした受付

ている。

法人のもう一つの拠点、JAビルでは、「若者しごと倶楽部」と「生きがいしごとサポートセンター」を運営。仕事を通じて自己研鑽し、自分の人生をデザインしていける人材の育成に力を入れている。

被災地「若手」の中間支援をサポート

このたびの東日本大震災では、岩手県への支援活動を行ってきた。7割が山岳地帯である岩手県は北海道に次ぐ広さで、4月初旬に訪れた田中さんは、復旧作業の進み方に宮城県と大きな差があるのを感じた。

地理的要件などでボランティアが入りにくい県北部の山田町災害ボランティアセンターを拠点とし、センターの支援や仮

設住宅でのコミュニケーション

に取り組んだ。その中で、地元の方とのコミュニケーションが適切な支援に欠かせないと感じた。

緊急的な支援活動に一定の目的がなかったため、今後は中間支援組織としての強みを生かし、まちづくり協議会や新しい中間支援NPOを立ち上げようという被災地での動きをサポートしていく予定である。

自治意識が醸成した元気なまちに！

「シーズ加古川は、NPOのサポートセンターでもあり、「まちづくり」をする法人でもある」と語るのは、事務局長の柏木登起さん。柏木さんは、「NPOやボランティアだけでなく、地域づくりや地縁活動もサポートする中間支援でありたい」という思いから「総合的」中間支援と表現する。東播磨地域の人々と一緒に「かこむ」を運営



イベントや展示ができるスペースも

していくことによつて、自分たちのまちは自分たちの責任で、という自治意識の醸成を図り、まちを元気にしたい」と意欲を示した。

NPO法人シーズ加古川
兵庫県加古川市加古川町篠原町111
☎079-422-0402 FAX079-421-0407
http://www.npo-seeds.jp
東播磨生活創造センター「かこむ」
☎079-421-1136
生きがいしごとサポートセンター播磨東
☎079-427-4075
若者しごと倶楽部サテライト播磨
☎079-423-2355

地域の底力は人のつながりがりづくりから！！

ワーカーとしての原点は？

「地元で、地域のために働きたい」という思いが原点です。大学卒業後3年間、他の地域で勤めた後、介護保険制度の開始を目前に控えた平成11年度に社協に入局。「社協？地域福祉？なんじゃそりゃ！」からのスタートでした。社協の地区組織である地区福祉連絡会の担当となったことで、ひとり暮らし高齢者などの見守り活動を知り、「顔見知りが多いこんな田舎でも必要?!」と驚いたことを覚えています。

地域福祉を進める中で「一番印象に残るエピソードは？」

平成21年8月9日、佐用町に家屋の全壊や半壊など大きな被害をもたらした兵庫県西・北部豪雨。県内はもとより日本全国からの支援、物資、義援金と多大なご支援をいただきました。

地元社協として災害ボランティアセンター

を運営する中、被災地域の調査のために巡回しているときのこと。地域では、自治会内で炊き出しをしたり、給水車の水や配給のお弁当を高齢者宅に届けたり、人手が足りない

被災家庭の片付けや泥出しを手伝ったりと、住民同士がお互いに助け合う姿を目の当たりにしました。この町に住む人々の底力を感じ、また普段からの人のつながりの大切さを強く感じました。



地域の高齢者と小学生が顔なじみに【世代間交流サロン】

今ホットな活動&力を入れたい活動は？

被災して痛感したのは、普段できていないことは当然、非常時にもできないということ。「日頃から何をしているか、何ができていないか、何をしなければならぬのか」を住民のみなさんと一緒に考える機会が大切だと考えています。具体的には、福

社協員を中心に自治会単位で開催される「ふれあいいきサロン」を訪問し、社協座談会、認知症サポート会、養老講座、災害にも強い地域づくりや介護保険などをテーマにした

出前講座の実施に力を入れていきます。こうした取り組みを通して、社協職員と住民の双方が「地域の課題と地域の持っている力」に気づくことができ、気づきの中から新しい活動が芽生えてきました。例えば高齢化の進む地域では、高齢者が高齢者を見守っている現状が共有され、多様な世代による見守り活動につなげようと、世代間交流サロンの取り組みがはじまっています。

地域の住民が持っている「底力」が、普段の地域の支え合いの力となるよう人と人とのつながりを作っていくことが、社協の仕事の醍醐味かなと感じています。

佐用町社会福祉協議会 **江見 義弘** さん

Personal History

- 25歳 佐用町社協に入局
- 32歳 社協合併を経験
- 35歳 組織再編に伴い本部へ異動
- 36歳 兵庫県西・北部豪雨により災害ボランティアセンターの運営

ワーカーとして大切にしていることは？

相手の話をじっくり聞くこと、あいさつ。

取材を終えて

日頃から地域の人々と一緒に考え、行動する江見さん。豪雨災害の経験を交えたお話から、地域の人々のつながりづくりにかける熱意が伝わってきました。



ひょうご福祉・介護のしごと
魅力発見キャンペーン2011

兵庫県、兵庫労働局、経営者団体、職能団体等で構成する兵庫県福祉人材確保推進協議会では、昨年10月から12月にかけて「ひょうご福祉・介護のしごと魅力発見キャンペーン2011」を展開してきた。キャンペーンの二環として、本会では次の事業を実施した。

「福祉の就職説明会
AUTUMN in
HYOGO」

福祉・介護の仕事のマッチングを促すことを目的に、10月・11月に姫路、尼崎、明石の各会場で福祉の就職説明会を開催した。県内140法人の出席と、学生・一般求職者400名の参加があり、求職者と求職者の双方が出会う機会となった。

「福祉講演会」

福祉・介護サービスへの理解の促進と社会的評価の向上を目的として、福祉・介護やボランティア活動などに理解があり、自らも実践活



赤星憲広さん



宮川花子さん

動に取り組む著名人を講師に迎えて福祉講演会を開催した。10月21日にはホテル日航姫路に漫才師・宮川花子さんを、11月28日には神戸市の県看護協会ハーモニーホールに元阪神タイガース・赤星憲広さんをそれぞれ講師にお招きした。各講師の自らの体験や活動経験を踏まえたお話は、両会場あわせて700名を超える参加者に大変好評であった。

法人経営の展望を探る
「施設経営トップセミナー」開催

12月2日、兵庫県経営協が施設経営トップセミナーを開催し、定員を大きく上回る206名が参加した。今年度のテーマは「改革期における法人経営の展望を探る」と題し、社会保障と税の一体改革をはじめとした国の情勢、それに伴う社会福祉諸制度の変化を見据え、社会福祉法人の進むべき道筋を探ること



特別講演で語る内橋克人さん

をねらいとした。まず、内閣府大臣官房少子化・青少年対策審議官の伊奈川秀和さんより、社会保障と税の一体改革の講演があり、これまでの改革の動きとその必要性、さらには全体像や優先的に取り組む課題などが紹介された。続いての基調報告では、社会福祉

法人慈善会常務理事の平田直之さんより、全国経営協から出された「アクションプラン2015」を題材に、自法人での経営実践の事例も交えながら、社会福祉法人が取り組むべき課題への提起がなされた。その後、経済評論家の内橋克人さんより、「福祉事業と経営者の役割」新時代のひと・組織・経営を考える」と題した特別講演がなされた。講演の中で内橋さんは、福祉・社会保障がどうあるべきかの根本的な問い直しが必要であると発言。TPPをはじめとした自由化の波が世界中で押し寄せる中、福祉は国の足腰を支える重要な分野であり、そこを守るのが社会福祉法人であるとの期待を述べられ、盛会のうちに終了した。

第10回 地域みんなで育てる「いちごクラブ」

～地域歳末たすけあい配分事業 稲美町共同募金委員会～



地域の住民もスタッフに(稲美町協の「いちごクラブ」)

「いちごクラブ」 平成24年、新年を迎えましてー希望くん、冬休みはどつだつた？
「希望くん」 Xマスケーキ食べて、年越しそばはすすりて、おもちゃを焼いて...
「いちごクラブ」 何だか食へてはつかりだつたのね。ちよつと運動しなへちやねーさて、今回紹介するのは、稲美町協の「いちごクラブ」(障害児預り事業)よ。
「希望くん」 かわいい名前だね。どんなことをしているのかな？
「いちごクラブ」 冬休みや春休み、夏休みと、学校が長い休みに入ると、障害をもった子どもはまじつと家の中にいることが多くて、親も負担が大きくなるよね。
「希望くん」 そつだね。そんなとき、子どもがどこかで安心して遊べる場所があればいいんだけど。
「いちごクラブ」 そこで生まれたのが「いちごクラブ」なの。平成17年に稲美町協が始めて、子どもたちにもお母さんた

ちにもとても喜ばれているのよ。スタッフには、主に地域の方々や大学生のボランティアがかかわっているのよ。障害をもった子どもたちが学校を卒業しても、地域で居心地良く生活できるように、今からつなかりを深めておきたいというのがねらいなの。
「希望くん」 ふだんは学校の先生や親と接していることが多いものね。「いちごクラブ」が障害をもつ子どもにとっての、地域の中のふれあいの場になっているんだね。
「いちごクラブ」 そうなの。そして、この事業の運営には、歳末たすけあい募金が活用されているのよ。
「希望くん」 地域歳末の募金が、学校と地域をつなぐ大切な福祉サービスに生かされているんだね。
「いちごクラブ」 障害をもつ子どもたちのデイサービスはまだ少ないし、子どもが成長するにしたがつていような形のニーズがあるから、こつした制度のはざまの活動をこれからも募金で応援していきたいわね。
「希望くん」 そつだね。僕も今年にはボランティア活動に参加してみよう。
「いちごクラブ」 昨年中は、共同募金歳末たすけあい募金にご協力いただき、本当にありがとうございます。今年もどうぞよろしくお願ひします。

みんなの広場

兵庫県社協の会員からの情報発信コーナーです

明るい長寿社会づくりをすすめるために

のじぎくクラブ兵庫
(財団法人 兵庫県老人クラブ連合会)

のじぎくクラブ兵庫は、県内の市町老人クラブ連合会で構成し、高齢者の福祉を増進することを目的に、生きがいづくりやニュースポーツなどの健康づくり事業などを行っています。現在、会員数は約25万人にのぼり、各地域で子育て支援、地域見守り・友愛活動など高齢者の生活や地域を豊かにするための活動を展開しています。

老人クラブでは、ヤングシニアならではのフレッシュなアイデアや発想を取り入れた楽しい活動展開を目指しています。

詳しい活動内容は本会ホームページ(<http://www.hyorolen.or.jp/>)をご覧ください。

連絡先

〒650-0011 兵庫県神戸市中央区下山手通4-16-3 県民会館4階
☎078-332-0574 FAX 078-332-3556
E-mail hyorolen@oak.ocn.ne.jp

こんな取り組みをしています

「高齢者の防災マニュアル」を作成しました。

のじぎくクラブ兵庫では、防災意識を高め、防災に向けた行動を促すため、平成8年発行の「高齢者のための防災マニュアル」を改訂。地震、風水害、火災への備え、老人クラブとしての防災活動のポイントを一覧化するとともに、緊急避難カードを盛り込んだ「高齢者の防災マニュアル・緊急避難カード」を作成しました。のじぎくクラブ兵庫ホームページよりダウンロードできますので、是非ご利用ください。



防災マニュアル

アピールしたい活動の
情報をお寄せください。

お問い合わせ先
兵庫県社協 総務企画部 ☎078-242-4633 FAX 078-242-4153 E-mail info@hyogo-wel.or.jp

助成金情報

福祉活動等に対する助成金の情報です。詳細については、それぞれの問合せ先にご確認ください。

財団法人JKA RING!RING!プロジェクト 競輪の補助事業

被災地域および被災者受入地域における拠点づくり、生活支援活動、記録・調査活動や被災者・被災地域が行う復興活動に助成します。

対象 特定非営利活動法人(NPO法人)、学校法人、社会福祉法人、更生保護法人、財団法人、社団法人、その他公共的な法人および大学に所属する研究者(大学生・大学院生は除く)

助成金額 1件上限300万円(総額1億円)
締切り 平成24年1月31日(火) ※ただし、締切り日にかかわらず補助金決定額が予算総額に達成した場合は受付を終了します
①④財団法人JKA補助事業グループ TEL03-3512-1278
URL http://ringring-keirin.jp/index.html

赤い羽根「災害ボランティア・NPO活動サポート募金」助成事業(第6次)

東日本大震災の被災地などで活動するボランティアグループ・NPOへの活動を支援します。

対象団体 東日本大震災の被災者へ救援・支援活動を現に行うボランティアグループ、NPO法人、社会福祉法人、学校法人、公益法人など

助成額 短期:50万円以内、中長期300万円以内
締切り 平成24年1月31日(火)必着
①④社会福祉法人中央共同募金会企画広報 TEL03-3581-3846
URL http://www.akaihane.or.jp/

全日本冠婚葬祭互助協会 社会貢献基金助成

災害救援、社会福祉事業、環境保全事業、国際協力など社会貢献活動を行う各種団体などへの助成、社会貢献に資する調査・研究を目的とした事業へ助成します。

対象事業 高齢者福祉事業、障害者福祉事業、児童福祉事業(福祉分野助成のみ抜粋)
対象団体 非営利組織(財団法人、社団法人、社会福祉法人、NPO法人、その他任意団体)
助成金額 1件あたり上限200万円(総額1,000万円)
締切り 平成24年2月29日(水)必着
①④社団法人全日本冠婚葬祭互助協会社会貢献基金運営事務局 TEL03-3596-0061
URL http://www.zengokyo.or.jp/

募集

コープこうべ虹の賞

市民活動の推進に大きく貢献した個人や団体、また今後の活動の発展が期待される個人や団体をご推薦ください。自薦・他薦を問いません。

表彰 功労賞と奨励賞合わせて15件
副賞 功労賞、奨励賞ともに個人5万円、団体10万円
締切り 平成24年1月31日(火)
①④生活協同組合 コープこうべ TEL078-412-2081

研修・イベント

お口とからだの健康を考える研修会

歯周疾患の予防が肺炎や糖尿病など全身の病気の予防につながるといわれています。かかりつけ歯科医を持つことや、口腔ケアについて研修会を開催します。

日時 平成24年2月19日(日)14:00~16:00
会場 明石市生涯学習センター 学習室2
講師 足立了平先生(神戸常盤大学短期大学 部口腔保健学科教授)
受講料 無料
①④兵庫県健康福祉部健康局健康増進課 TEL078-362-9109

「災害と障害者のつどい 一東日本大震災と障害者支援 阪神・淡路大震災の教訓はどう生かされたか」

災害時における障害者支援のあり方がどうあるべきかを考える機会として開催します。
日時 平成24年1月21日(土)13:00~16:00
会場 神戸市勤労会館308会議室
対象 兵庫県内の障害者と家族、一般県民
定員 150人
参加費 300円
④NPO法人兵庫障害者センター TEL078-341-9544

拘束なき介護にむけてのシンポジウム

高齢者虐待防止法の基礎知識はもちろんのこと、施設・事業所において虐待が起こりうる要因やその対応策を考える機会として開催します。
日時 平成24年2月10日(金)13:30~16:30
会場 兵庫県会館11F パルテホール
対象 会員事業所、福祉関係者、福祉系学生、利用者・家族、一般の方
定員 150人(先着順)
参加費 無料
④社団法人兵庫県老人福祉事業協会 TEL078-291-6822

第2回 福祉の就職総合フェア in HYOGO

福祉職場への就職を希望する学生や求職者を対象に、社会福祉施設等と求職者の合同就職説明会を開催します。

日時 平成24年2月28日(火) 13:00~17:00
会場 神戸サンボーホール
対象 学生・一般求職者
参加費 無料※事前申し込み不要
内容 福祉の就職合同面談会、求職情報の提供、相談コーナーなど
①④兵庫県社会福祉協議会 兵庫県福祉人材センター TEL078-271-3881
URL http://www.hyogo-wel.or.jp/

行事予定

- 1月 6日 介護職員のキャリアアップセミナー(Aコース)◆県立のじぎく会館
- 6日~ 主任介護支援専門員研修 ◆県医師会館ほか
- 11日 新任民生委員・児童委員研修 ◆県立のじぎく会館
- 11・18日 職場内研修担当者研修(Aコース) ◆社会福祉研修所
- 16日 老人福祉施設中堅職員研修 ◆社会福祉研修所
- 18日 介護支援専門員研修・施設職員版 ◆社会福祉研修所
- 18・19日 兵庫県民生委員・児童委員会会長等研修◆神戸ポートピアホテル
- 24日~ 介護支援専門員実務研修・更新研修B・再研修◆舞子ビラほか
- 25・26日 相談面接技術研修・初級(Bコース) ◆社会福祉研修所
- 27日 苦情解決セミナー・第三者委員研修 ◆県立のじぎく会館
- 28日 介護職員のキャリアアップセミナー(Bコース)◆県看護協会
- 30日 経営協第220回理事会 ◆県福祉センター
- 2月2・9日 職場内研修担当者研修(Bコース) ◆社会福祉研修所
- 22・23日 接遇・日常マナーリーダー養成研修◆県福祉センター
- 28日 福祉の就職総合フェアinHYOGO ◆神戸サンボーホール

別府・由布院 1泊3食送迎付おすすめシリーズ

さんふらわあ 往復個室利用 + らくらく送迎バス 港⇨ホテル + ゆふいん山水館・ホテル山水館 1泊3食付(朝食・夕食朝食)

出発日 2012年 1月12日~12月19日
ゴールデンウィーク・お盆は設定除外(詳しくはお尋ね下さい)
旅行代金(大人お1人様) 本館(山側) 2~5名1室 19,800円~29,800円

旅行企画・実施 大府和事堂旅行業 第2-2396号 社団法人旅行業協会正会員 さんふらわあトラベル株式会社
http://www.ferry-sunflower.co.jp/tour
本社営業部 大阪市北区梅田1丁目2番2-1200 大阪駅前第2ビル12階 総合旅行業務取扱管理者 山本 茂 TEL 06-6344-8521 平日9:45~18:00 定休 土日祝

詳しくはお問合せ下さい!!

生命保険の見直し相談 分かりにくい保険を 分かりやすく伝える

生命保険 医療保険 がん保険 学資保険

創業33年の保険代理店 株式会社 近畿ファミリー

0120-004-888 大阪市福島区 福島 7-21-14-3F